１：勉強会の跡を　研究誌として　残します。

　（何のため）実践のアーカイブデータ化と自己成長の跡を残すため

　　・若い先生の成長は，こうした会での研鑽から飛躍的に伸びます。

　　　では，自分は　人は　どういった瞬間伸びていくのでしょう。

　　・教材解釈，研究方法･･市や県でもなされますが，熟達者，研究者からゆっくり学ぶ機会は多くありません。

　　　研究誌に跡を残すことで，若い先生のハンドブックとなるでしょう。

　　・自分自信の成長は，書くことをしないとメタ化されません。

　　　成長のためには，他者から批判吟味されることです。

　　　その助言こそ後に残し，ふり返って取り入れて見られる場の提供をします。

　（その結果）

　　・研究誌の紹介，配付（教育委員会，文科省，出版社など　当然皆さんへも還元します。校長へ）

　　・田中，須本による　岐阜発の全国へプロデュースまではいかないかも知れませんが

　　・研究コラボ　力量が高まれば，研究者と研究にもとづいた実践コラボ

　（研究誌，実践集･･･？）

　　・原則　両方の正確を持ち合わせたものといたします。

　　・若い先生は，まず実践から

　　・附属などの先生は，研究的に

　　・院での先生は，学会発表の成果でも

　（具体的には）

　　①単実践論文：元計画・指導案を盛り込んだ，自分なりのテーマに基づき授業とその実践をふり返る

　　②研究論文：・研究テーマに基づき，先行研究や自分の研究の仮説→検証

　　　　　　　　・子どもの心理調査

　　　　　　　　・教材化案･･･実践にまでは至らなかったが海外調査などをもとに今これをしかけ始めた

　　③現場のまとめの転用

　　　　岐大同窓会論文など，既に自分の実践をまとめたものをリメイク或いはそのままこちらでも活用する

　　④卒論:修論の発表：

　　　　田中・須本のゼミ生の卒論発表（一人1から半ページ程度）

　　⑤その他

　　　　他校で見かけたおもしろ実践の紹介，

　　※メインは先生方の①～③です。

２：具体的に

　①７月頃までに投稿意思のある人は原稿をまとめる

　②必要に応じて，田中須本相談に応じる

　③夏頃，製本へ

　④秋頃　第一号完成

　⑤冬頃　配本

（ページ数）原則最大10ページ　必要に応じて＋－４ページ程度

（書式）資料添付しました。

　・Ｂ５

　・フォント　１０Ｐ　４４文字　４２行

　・単元計画，指導案，図，表

　　ポイントは７Ｐまで落として可

　　特に単元計画・指導案は　行間を美的に無駄なく詰める

　・余白　上下２６mm　左右２６mm

　・Ｐ.１　最初（６行使い　７行目から本文）

　　研究タイトル　：１１Ｐ（ゴシック・センタリング）

　　副題（あれば）：１０．５（ゴシック.センタリング）

　　学校名：１０．５　（ゴッシク。右寄せ）

　　名前　：１０．５　（ゴッシク。右寄せ）

　　一応は決めますが，必要に応じて変更してください。

　　ワードが勝手に変更することもあります。

（留意点）

　・見出しをゴシックで上手につけてください。

　　１　(1)　①

　・必要に応じて，１行余白をあけてください。

　・一文を長くしないことがポイントです。文のねじれがなくなります。

　・主語を意識してください。

　△子どもが特定できないよう配慮

先生方に失礼と思いつつ，今更の事を書きました。

質問があれば須本まで連絡ください。

今後も必要に応じて連絡させていただきます。